

要因が精神疾患の発症リスクを上昇させることが明らかにされています。これら

リスクとされる環境要因が個人の遺伝的

背景と相互作用し、精神神経機能の発

育・発達に大きな影響を与えていると考

えられています。その分子メカニズム

についてはほとんど解明されておりませ

ん。今後の精神医学・脳科学が対象とす

べき広大な研究分野が広がっていると感

じております。

私は、これまで精神疾患患者死後脳試

料を用いたエピジェネティクス研究や体

細胞変異研究など、神経細胞ゲノムDN

Aの動的側面や多型性に着目した研究を

してご指導とご鞭撻の程をよろしくお願

熊本大学大学院生命科学研究所  
血液・膠原病・感染症内科  
学分野教授就任のご挨拶



大学院生命科学研究所  
血液・膠原病・感染症内  
科学分野教授  
松岡 雅雄

平成二十八年七月一日に熊本大学生命

科学研究部・血液・膠原病・感染症内科

学教授に就任致しました。

私は昭和五十七年に熊本大学医学部を

卒業して、高月先生が着任された第二内

科に入局致しました。一九七七年に高月

先生達が独立した疾患として提唱された

成人T細胞白血病(ATL)は、一九八〇

た昭和五十七年は、その興奮が最も高

まった時期であり、日々、明らかにされ

ていくATL、HTLV-1感染症の研究

に魅了されていきました。

私が第二内科に入局したのは、現在、

治療法のない病気を治せるようにしたい

という思いからです。入局後、第二内科

で血液疾患の診療・治療に明け暮れまし

たが、吉永先生(現熊本中央病院・副院

長)に気管支鏡を習い、二年目に熊本市

地域医療センターに勤務してからは様々

な疾患の診療に従事し、充実した研修を

送ることができました。その後、大学院

研究で明らかにするというスタイルを維

持し、研究を進めてまいりました。二〇

〇九年から四年間、ウイルス研究所所長

として部局の運営にあたりました。所長

としての責務と共に京都大学研究所・セ

ンターの代表世話部局も勤めさせて頂き、

多くの優れた異分野の研究者と交流でき

たことは私の大きな財産です。本年、こ

れまでの研究で得られた経験、成果を臨

床で発展させるべく熊本大学に戻る決断

を致しました。

当内科は日本でも最も古い歴史を有す

る血液内科であり、その歴史の中で血液

学に最先端の免疫学、ウイルス学が融合

研究で明らかにする

持し、研究を進めて

〇九年から四年間

として部局の運営

としての責務と共に

ンターの代表世話部

多くの優れた異分野

たことは私の大きな

れまでの研究で得ら

床で発展させるべく

を致しました。

当内科は日本でも

る血液内科であり、

学に最先端の免疫学